

辺野古・大浦湾の貴重な自然を守るための声明

沖縄県の辺野古・大浦湾一帯は、世界的に見ても生物や地形の多様性が高く、この海域には、ジュゴンやウミガメ類などの絶滅危惧種 262 種をはじめ、5,334 種の生物が生息していることが明らかになっています。また、沖縄島周辺でも大規模な海草藻場や、遺伝的に特異なチリビシのアオサンゴ群集、サンゴ礫が付着して成長する鍾乳洞があるなど、貴重な自然が数多く残されています。

沖縄県は、辺野古・大浦湾海域を「厳正な自然保護を図る区域」である自然環境保全指針ランク I と評価し、環境省は、ラムサール条約の登録湿地の国際基準を満たす潜在候補地として、また、「生物多様性の観点から重要度の高い海域」のひとつとして抽出しています。さらに、米国の環境 NGO ミッション・ブルーは、2019 年に日本で初めてのホープスポットに認定しました。

長い年月を重ね形成されてきたこの豊かな自然環境は、恵みとなって地域の人々の暮らしを支え、地域の文化の礎となってきました。私たちは、辺野古・大浦湾の自然がもつ大きな価値をもう一度見直し、次の世代に残していきたいと思っています。

しかしながら、2017 年 4 月に辺野古新基地建設のための埋め立て工事が、多くの沖縄県民が反対しているにも関わらず着工されました。着工後には、大浦湾に軟弱地盤の存在が明らかとなり、国内では実績のない大規模な地盤改良工事が必要となっております。ジュゴンは、2018 年を最後に、辺野古・大浦湾だけでなく、隣接する嘉陽の海域においても目視や食み跡の確認ができていません。このまま埋め立て工事が進むならば、この海域に残されているかけがえのないサンゴ礁生態系の豊かさとその価値が、永久に失われてしまう可能性があります。

沖縄県では、この海域などの保全に向けて、ジュゴン保護対策検討委員会での取り組み、自然環境の保全に関する指針の策定、エコツアー事業者の環境保全利用協定の認定、外来生物侵入防止条例の制定などの取り組みを進めております。また、新基地建設の中止を日米両政府へ繰り返し求めているほか、基地問題の解決に向けた国民的議論の機運醸成を図るため、知事のトークキャラバンなどの情報発信活動を展開しています。

私たちは、この海域の生きものの命と自然のかけがえのなさを共有し、この美しい海を守ることが、今生きている人間の責務であると考え、次の世代へ引き継ぎたいと切に願っております。

以上のことから私たちは、日米両政府に対し下記のことを求めます。

記

- 1 辺野古新基地建設計画に伴う工事を中止し、沖縄県との対話に応じること
- 2 辺野古・大浦湾の生態系への影響を正確に理解し保護するために、あらゆる調査と評価を行うこと

2021 年 9 月 11 日

沖 縄 県

「辺野古・大浦湾シンポジウム 2021」登壇者一同